平成24年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

1 1 7

提案機関名 神奈川県内水面養殖業者協議会

要望問題名

アユの冷水病のワクチンの実用化

要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(而積、数量等)】

県内のアユ養殖場では、食用、友釣りのオトリ用及び河川放流用にアユを生産していますが 、近年、全国的にアユ冷水病が発生し、その対策に苦慮しています。本病は投薬による完治が 難しく、さらに、あごの欠損や体表の穴あきなどの症状により商品価値が著しく低下します。 このため、ワクチンによる予防が重要と考えます。ワクチンの使用は、抗生物質等の使用低減 に繋がり、薬剤耐性菌の出現や抗生物質等の魚体への残留リスクを低下させることが期待され 、食の安全確保にも有効と考えております。これらのことから、アユ冷水病ワクチンの早期実 用化を要望します

解決希望年限

①1年以内

②2~3年以内

③4~5年以内

④5~10年以内

対応を希望す

①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター

る研究機関名

④自然環境保全センター

備考

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

担当部所 回答機関名 水産技術センター 内水面試験場

対応区分 ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名 (①、②、④の場合) 魚病対策技術・ワクチン推進研究

対応の内容等

これまで多くのワクチンが試作され、実用性について検討されてきました。これらのうち、 実用化が有望な浸漬ワクチンについて、平成20年度から独立行政法人水産総合研究センター養 殖研究所の指導を得ながら製薬メーカー、滋賀県及び本県が協力して実用化に向けて取り組ん でおります。平成23年度からは養殖場等において、製薬メーカーが生産したワクチンの臨床試 験に着手しました。現在、ワクチンの承認に向け治験データを収集しており、ワクチンの早期 実用化に努めてまいります。

解決予定年限 ①1年以内 ②2~3年以内 ③4~5年以内 ④5~10年以内

備者